

特別対談

皆様は「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」をご存知でしょうか。
今回は同プロジェクトディレクターである船橋力様にお越しいただき、
山田＆パートナーズ統括代表社員三宅茂久と対談いたしました。

「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」について教えてください。

(船橋) 2014年にスタートした官民協働の海外留学支援制度です。民間からの寄附による返済不要の奨学金により、2020年までに1万人の高校生・大学生を世界に送り出すことを目標としています。従来、留学といえばアカデミックな留学が一般的でしたが、インターンシップやボランティアなど実践型で社会との接点があるような体験型の留学ということが大きな特徴です。

このため、成績や語学力ではなく、「熱意」「好奇心」「独自性」を選考基準に置き、多様な留学スタイルを支援しています。留学生の渡航先は欧米だけでなく、アジア・オセアニア諸国、アフリカ、中南米、中東と全体で延べ100カ国以上に及びます。

(三宅) グローバル人材の育成という観点で非常に共感します。山田＆パートナーズは海外に5事務所を構えていますが、派遣する社員を社内公募してもなかなか手が上がりません。税理士・会計士になるメンバーは、資格試験を一所懸命勉強して入社し、入社後も仕事を覚えなければいけない中で、グローバル目線を養う余裕がないのが現実的なところなんですね。

学生のうちに一度でも海外に出た経験があれば、税理士・会計士になっても「海外で挑戦したい」という意気込みの



三宅 茂久（左）、船橋 力（右）

ある人材がもっと出てくるのではないかと感じています。

(船) これからの20年は過去200年間に匹敵するほどの激しい変化が到来するといわれています。変化対応力が必要であり、不慣れな環境で揉まれた人材の方が重宝されていくでしょう。我々のプログラムでは、実践活動を必須として、自ら企画した留学プランを提出してもらい選抜を進めていきます。学生視点に立てば、自分のやりたいことを主張でき主体性で評価をもらえることになります。

(三) 従来は留学といえばMBAコースに送り出すというのが一般的でした。トビタテというのは従来型を踏襲せずに、学生の主体性を育むという今までとは全く違う発想ですね。



ご寄附をご検討の方へ

個人の方

■インターネットからのお申込み

クレジットカードで1,000円から
ご寄附いただけます。



■お電話によるお申込み

お電話でお申込みをいただいた後、必要書類を送付いたします。まずはお電話ください。

個人寄附担当: **03-5253-4111** (内線4927)

法人・団体の方

法人寄附担当まで、ご一報ください。
お手続き方法についてお伝えいたします。

法人寄附担当: **03-6734-4923** (受付: 平日10時~17時)

イベント、その他のお問い合わせ

ご不明な点等ございましたらお気軽に問い合わせください。

03-6734-4923 (受付: 平日10時~17時)

メール: tobitate-private@mext.go.jp

■本プログラムへの寄附金は、税制上の優遇措置が認められています。詳しくは、山田＆パートナーズ担当者におたずねください。

船橋 力
文部科学省
官民協働海外留学創出プロジェクトディレクター
1994年伊藤忠商事株式会社に入社、2000年株式
会社ウィル・シードを設立、2009年世界経済フ
ォーラムのヤング・グローバルリーダーに選出、
2013年～現職

三宅 茂久
税理士法人 山田＆パートナーズ
統括代表社員 税理士
1989年公認会計士・税理士 山田淳一郎事務所入所、
1997年（～1999年まで）BDO Seidman.LLP 口
サンゼルス事務所に出向、2008年税理士法人山田
&パートナーズ統括代表社員に就任

三宅統括自身の海外体験について聞かせてください。

(三) 1997年、32歳のときに米国ロサンゼルスの会計事務所に2年半出向する機会がありました。当時全米で3,000人、私が在籍したロサンゼルスには300人ほどの従業員のいる会計事務所でした。純アメリカの会計事務所でしたので、私が入った部署には日本人は誰もいませんでした。最初の1年は正直苦しかったですね。今思うと、多国籍な環境で働けた経験は非常に貴重だったと思います。海外経験で役に立つことを一つに絞ってあげるとしたら、世界のどこに行っても仕事をやっていける自信がついたことですね。

(船) 三宅さんのご体験は「アウェイ体験」もしくは「コンフォートゾーンからの脱却」といえるかもしれません。そこで培った自信を持つことが、変化が激しい時代には必ず必要なものになるでしょう。

そんな経験を踏まえて、高校生の事後研修を見た感想は如何でしたか？

(三) 強烈に思ったのは、「うらやましい」の一言です。自分がもっと若いときに留学をしていればまた違った経験ができたと思います。十代からそういう経験をしているのはうらやましいなと思います。だからこそ、心からこのプロジェクトを応援したいと思うようになりました。加えて、自分の力で切り拓き、やり遂げた経験を話す姿に「たくましいな」と感じました。

(船) 特に高校生は、留学して夢や志、あるいは逆に葛藤や問題意識を見つける場合があります。一般に、大学に入学する時にはあまり何を勉強したいという意志がないケースが多いのではないでしょうか。高校生のうちに海外に行った生

徒は、（そのときに見つけた）志もしくは問題意識をきっかけに、大学4年間のお金と時間配分がずいぶん変わるのでないかと思います。

(三) 大学4年間に止まらず、人生トータルで影響するのかもしれませんね。

(船) ただ、我々の調査では40%の高校生が留学したいと言っているにもかかわらず、高校時代に留学している人は1%に満たないのが現状です。金銭的な理由で断念する生徒が多いのです。留学未経験者に対する調査では、68%が留学を断念した理由として費用負担の大きさを挙げています。

(三) このプログラムには、日本のリーディング企業が参画していて、まさにオールジャパンでやっている企画だと感じます。いっぺんに大きな金額を寄附することができなくても、このプロジェクトに共感して寄附に参加したいという個人の方や中小企業の方も多いのではないでしょうか。

(船) ゼビ社会全体で留学機運を高めていく本取り組みにご賛同いただきたいです。私たちとしては一人でも多く意欲と能力ある若者を留学に送り出したいのですが、切実にお金が足りていないのが現状です。中小企業やNPO、地方自治体で課題が山積するなかで、多様な経験を積んだ留学生が「非常識な知恵」とマンパワーをもとに解決していく、イノベーションを生み出す人材バンクのような形が実現できるかもしれません。このプログラムでは、法人・団体の皆さまからのご寄附をはじめ、個人の方からもご寄附いただけます。定期的にイベントにて活動内容や留学体験発表を行っていますので、ぜひご参加ください。

今後のイベント案内

文部科学省内で行う本イベントは、エネルギーに満ちた学生達の留学発表をはじめ、プロジェクト創設の意義や現状をお伝えします。元気な若者からパワーをもらいたい・将来を担う学生を応援したい、そんな方のご来場をお待ちしております。

11/17 (土) 14:00 ~ 15:30

前代未聞の国家プロジェクト

世界に飛び立つ若者の本気とホンネ!
～好奇心とパッションが僕たちの武器だ～

12/5 (水) 19:00 ~ 20:30

知ってほしい!未来への種まきプロジェクト
世界に飛び立つ
外向きな若者たちの大膽チャレンジ!

お申し込み

